

# 週報

令和 4 年 3 月 25 日

2021~2022年度 No.16

2021-22年度 国際ロータリーのテーマ



奉仕しよう みんなの  
人生を豊かにするために

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

## プログラム

S A A 三村 剛孝君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆誕生祝

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「福江島でみられる野鳥」

西上裕一郎君

☆点 鐘

☆食事懇談

現在会員					33名					前々回の欠席者(3/11)					6名		
本日	出席	18名	欠席	10名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	2名	出席率						64.29%		
前々回	出席	22名	MU	1名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	1名	修正出席率						79.31%		
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6					
	本年度	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49							
	前年度	83.33	87.63	79.27	76.75	80.65	80.27	全休会(0)	75.93	78.09	82.34	全休会(0)	80.48				

例会場  
例 会  
事務所  
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111  
金曜日(12時30分~13時30分)  
長崎県五島市末広町8-4  
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 山 下 克 己  
副 会 長 吉 田 泰 之  
幹 事 橋 本 武 敏  
雑誌:会報委員長 出 口 雅 昭

## 誕 生 祝

橋本 武敏君(昭和44年3月15日生)

誕生祝い有難うございました。3月15日で53歳になりました。

この1年間、毎朝ルームウォーカーで30分間ウォーキングを続けました。結果、1年で12kgダイエットできました。1ヵ月で1kgのペースです。

しかし、ここ3ヵ月ほとんど体重が減っていません。したがって、53歳になった今年はダイエットではなく、健康を目的としてウォーキングを続けたいと思います。そして、その成果をもって登山にも挑戦したいと思いますので、1年後の誕生祝いの際は、登山について報告したいと思います。



## 会長の時間

会長 山下 克己君

皆様こんにちは。

桜の花も咲き始めて、春らしくなってきました。それにもかかわらず、「花に嵐」という言葉にあるように、天候の方はどうも下り坂のようです。予報でも今晚から雨、風ともに強まるとなっております。来週予定のIMのことがますます心配の種となっております。

本日は3月25日、12月度、第3例会、通算第16例会となります。

16回目の会長の時間を務めさせていただきます。

いきなりですが、連日信じられないような報道が1ヵ月以上も続いています。いったい、ロシアは、プーチン大統領は、何のために、何の目的があって、何の得もないような、暴挙ともいえるべき行動に出たのか、理解に苦しむところです。

以前、読んだ本に「ロシアは、脅威と言われているが、実はそうではない。」というのがあります。

した。なぜなら、ロシアは人口1億人から少々上るくらいですから、現実には自分の大きすぎるような国土も守り切れないのが実情だともありました。その時は、なるほどと思ったのですが、こんな形で脅威が現されるとは、まったくの予想外です。

ただ、戦争というのは、結局のところ、相手から何かを奪うために武力を行使することですから、一日も早い終結を願いますが、その結果が大変心配になります。

「歴史上では、武力の背景の無い平和が、50年以上続いたためしはない。」とも言われています。核の脅威の前には、なす術もないのか、という想いもしています。

いずれにせよ、「事実は小説より奇なり。」という言葉思い出します。何やら、世情不安が一気に飛び出てきたようです。

コロナの問題もあります。加えて、北陸の地震のこと、全体には物が不足していることやその傾向が進んでいること。ますますのインフレ傾向、何やら頭が痛くなってきます。私ごとき凡人には、理解の外と諦めることとしました。

ただ経営の第一は、先を読むことにあると考えています。皆様方のお知恵を拝借できればと願っております。

また、一週間後に迫ったIMの開催についても、くれぐれもよろしくお願いいたします。

以上で、会長の時間を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## 幹事報告

幹事 橋本 武敏君

『当クラブ関係』

### 1. 臨時理事会報告

先週3月18日に開催されました臨時理事会において、次のとおり決議されましたのでご報告いたします。

① 本日3月25日、および4月1日の例会は、昼食懇談をプログラムの最後、かつ自由参加という形で開催することとなりました。

② 4月1日からの例会費(食事、会場費他)について、カンパーナホテル様から提示された1人あたり1,400円から2,000円への値上げを承認しました。

### 2. IM実行委員会の開催について

本日例会終了後、IM実行委員会を開催しま

すので、関係者のご出席をお願いいたします。

合計 17,000円  
通算合計 410,000円

『その他』

1. 「第7回日台ロータリー親善会議福岡大会」  
のご案内

## 委員会報告

### 出席報告

- ◆ 3月25日（免除(a)欠席者）  
中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆ 3月25日（免除(b)欠席者）  
北島 博志君 谷川 和啓君
- ◆ 3月25日欠席者  
片山 雅文君 松岡 孝博君 谷川 久利君  
坂井 成光君 神之浦文彦君 小畑 和男君  
柳田 靖夫君 宮本 光藏君 有川 真史君  
森田 大輔君

## 親睦委員会

### スマイル報告

- ◇ 吉田 泰之君 小畑和男さん、ホールインワンおめでとうございます。
- ◇ 橋本 武敏君 誕生日お祝いありがとうございます。
- ◇ 西上裕一郎君 趣味全開の卓話ですが、少しの時間お付き合い下さい。
- ◇ 山下 克己君 橋本武敏さん、誕生日おめでとうございます。
- ◇ 清瀧 誠司君 ”
- ◇ 中村 栄治君 ”
- ◇ 張本 民雄君 ”
- ◇ 中村 陽二君 ”
- ◇ 三村 剛孝君 ”
- ◇ 寺澤 信義君 ”
- ◇ 戸田 博之君 西上裕一郎さん、卓話よろしくお願ひします。
- ◇ 中村 吉廣君 ”
- ◇ 山里 一郎君 ”
- ◇ 才津 喜彦君 ”
- ◇ 平村 和弘君 ”
- ◇ 出口 雅昭君 ”
- ◇ 山下 実君 欠 席。

## 部内卓話

### 「福江島でみられる野鳥」

西上裕一郎君



本日は、私の趣味である野鳥観察に関連して「福江島でみられる野鳥」と題してお話していきます。

急遽卓話をすることになり、お題を考えた時、すぐに思いついたのが野鳥に関してでした。皆さんは普段あまり気にすることのないことだと思いますが、しばらくお付き合いください。

私が野鳥に興味を持ったのは4年前です。ロータリークラブの例会へ出席する為に自宅へ着替えに帰った時に、裏の空き地に見たことがない野鳥がいました。なんとなく写真に撮っていましたが、そのまま忘れていました。半年以上経って写真のデータを見返していた時に種名を調べて、それが「オオカラモズ」という珍しい野鳥だとわかりました。それから興味を持ち、今では休日に野鳥を探して島内をまわっています。

その野鳥（鳥類）ですが、世界に約1万種がいます。日本で確認された鳥類は自然分布種で633種、外来種は43種です。この数は後でご説明する迷鳥も入っています。福江島で確認された鳥類は約330種です。多いように感じますが、1年中福江島にいる野鳥はそのうち約30種ほどです。

この1年を通して同じ場所で見られる野鳥を「留鳥」といいます。それ以外は「渡り鳥」です。渡り鳥も呼び方があります。春に日本より南の地域から暑さから逃れるためにやってきて繁殖し、秋には日本より南の地域へ戻って冬を越す鳥を「夏鳥」といいます。逆に、秋に日本より北の地域から寒さから逃れるためにやってきて冬を越し、春には日本より北の地域へ戻って繁殖する鳥を「冬鳥」といいます。また、春や秋に渡りの途中

で日本に立ち寄る鳥を「旅鳥」といいます。福江島で見られる野鳥の種類で割合で多いのがこの旅鳥です。その他に、台風など何らかの要因で正常な渡りのルートや生息域から外れて迷い込んできた鳥を「迷鳥」といいます。

留鳥を見るのもいいのですが、やはり渡り鳥をみるのが楽しみです。

次にお話するのは、身近な野鳥に関してです。日常生活でよく目にするのがスズメです。人間の営みのすぐそばで生きているので、皆さんもあまり気にしていないと思います。たくさんいる茶色い小鳥をすべてスズメだと思っていると思いますが、実はスズメ以外にも人間の生活圏に入り込んでいる小鳥がいます。ホオジロという野鳥です。スズメとホオジロは大きさや色合いがよく似ているので気づきませんが、かなりの確率でホオジロをスズメと勘違いしていると思われます。ホオジロは少し警戒心が強いので近づくと逃げますが、今度見かけたときにスズメかホオジロかを確かめてみるといいかもしれません。

次にカラスの話です。一年中みかけるカラスですが、冬になると急に増えたように感じたことはないでしょうか。その訳をお話します。福江島で見られるカラスは、実は4種類います。一年中島で暮らす留鳥のカラスと、渡り鳥のカラスがいます。まず、一年中みかけるカラスはハシボソガラスとハシブトガラスです。ハシボソガラスはその名の通りクチバシが細く、頭の上からクチバシのラインが横から見るとなだらかです。鳴き声はガーガーです。ハシブトガラスはクチバシが太く、頭の上からクチバシのラインの角度が急になっています。鳴き声はカーカーです。羽の色も若干違うのですが、単体で見るとよくわかりません。

そして、秋にやってきて翌年の春までいるのが冬鳥のミヤマガラスです。ハシブトガラスに似ていますが、クチバシが灰色をしています。鳴き声はガーガーですが、ハシボソガラスより若干低い鳴き声です。このミヤマガラスが冬にカラスが多く感じる要因です。数十羽、時には数百羽の群れとなり、稲を刈り取った田んぼでエサを探しています。冬の空に大群で飛んでいるのも、ほとんどがミヤマガラスです。そして、このミヤマガラスの群れに1~2羽か数羽紛れ込んでいるのがコクマルガラスです。大きさは他のガラスより少し小さく、クチバシもかなり小さいです。冬にミヤマガラスの大群が空を飛んでいるのを見かけたときに、キュアッキュアッという鳴き声が聞こえ

たら、その中にコクマルガラスが混ざっています。このコクマルガラスは全身真っ黒な暗色型がほとんどなのですが、稀にパンダのように白黒な淡色型がいます。毎年福江島にも来ていますが、数が少ないので、まだ私は見たことがありません。

カラスは見た目の区別が付きにくいので、冬に渡り鳥のミヤマガラスが来ていることを知らない人が多いと思います。私も野鳥に興味を持つまでは、冬になると集まり大群になって、夏にはバラバラに暮らしているのだと思っていました。

渡り鳥といえば、福江島の玉之浦地区大瀬崎ではハチクマというタカの仲間の渡りが見られます。クマタカというタカに似ていて、蜂を好んで食べるのでハチクマというそうです。このハチクマ、春と秋では渡りのルートが異なります。冬は東南アジアで越冬し、春に中国大陸を北上して朝鮮半島経由で日本に渡ってきて夏の間繁殖します。そして秋には日本列島を南下しますが、朝鮮半島には行かず福江島を経由して中国大陸に渡り東南アジアへ戻ります。福江島を通過するのは、毎年9月中旬から10月上旬にかけてです。その数は毎年1万羽以上、日本でも有数のハチクマの渡りの観測地がこの福江島なのです。野鳥観察や撮影が趣味の人は、毎年この時期に福江島へやってきます。中には毎年キャンピングカーでやってきて1ヶ月以上滞在している人もいます。福江島はそれほどすごい場所なのです。

私もこの時期は何度か観察に行きます。朝5時すぎに出発して40~50分程かけて大瀬崎の展望所へ行き、6時頃からスタンバイします。ちょうどその頃に夜が明け始めます。しばらくすると、前日に山の中の木に止まり寝ていたハチクマが目覚まして飛び始めます。大瀬崎の展望所はハチクマが上昇気流に乗るために上空を旋回する場所の為、絶好の観測地なのです。観測できる数は天候などの条件によって当たりはずれがあり、少ない時は数十羽しか見られませんが、多い日は何百という数が渡り、空一面にハチクマが舞っているという日もあります。しかも、ハチクマが渡る時間帯が日によって違い、早ければ夜が明けてすぐに渡り始めるのですが、昼前後になる日もあります。観察に行く日が仕事が休みなら良いのですが、仕事がある平日には7時頃には撤収し、8時には出社しています。この平日に出社した後に大量にハチクマが渡ったという日も何度かありました。ただ、渡りが見られる時間帯は6時から8時の間が多いです。毎年観察に訪れる人は必ずこの時間帯にいるのですが、観光客や地元の親子連れの家族

などは夜が明けてから福江地区を出発して8時以降に来る事が多く、ぼつぼつと渡るハチクマを見て帰ります。ハチクマの渡りを見る団体のツアーでさえそのような感じですが。それを見るたびに一番いいところを見たければ、もっと早い時間帯に来ればいいのと思っています。

観察は上空を舞うたくさんのクマタカを見るのも面白いのですが、個体差があって、黒っぽい、白っぽい、羽根が少し抜け落ちていて中国大陸まで飛んでいけるのかと心配な個体、などを見分けるのも面白いです。

このハチクマの渡りは、上空の気流が大きく影響しています。近年の地球温暖化により、この気流が少しずつ変化しているようです。このまま風の流れが変わっていけば、この先何十年かするとハチクマが福江島を通過しないようになる可能性もあるそうです。私が観察し続けているうちは、そのような事にならないように願っています。

次に、新聞記事を元にお話をいたします。先月、ナベヅルの群れが三井楽町の白良ヶ浜にやってきました。その数は千羽近く。鹿児島の出水平野で越冬した群れが、北帰行の途中で立ち寄ったようです。本来の渡りのルートから少し外れているのですが、それでも毎年数羽から数十羽のナベヅルが福江島や久賀島に飛来しています。しかし、この数がやって来るのは大変珍しい事でした。私も前日の夕方に野々切地区あたりでナベヅルの群れを見かけたという情報を得ており、それが白良ヶ浜に降りて翌朝まで滞在しそうだという事も教えていただいていたのですが、まさか千羽近くもい

ると思ってもみず、観察しそびれてしまいました。恐らく今後数年あるいは数十年は見られないであろう光景だと思われ、見に行かなかった事を大変後悔しています。

もう一つは、私が見つけた野鳥が新聞に取り上げられた記事です。クロジョウビタキという野鳥で全国でもあまり観察例がなく、県内でも数例目、五島市内では初めて観察された野鳥です。冬鳥としてやってくるジョウビタキという野鳥がいますが、そちらは秋から春にかけて島内のあちこちで見ることができます。今の時期はだんだんと北へ移動し始めるので、そろそろ見なくなります。そのジョウビタキの仲間です。観察例が少ないのは、生息域がヨーロッパ・ロシア、東は中国までで、日本へは本来やってこない迷鳥だからです。この日は普段野鳥を観察するスポットではない場所で見かけて撮影しました。観察している時は珍しい野鳥だと分からず、見たことがないけど、撮影しておこうぐらいの気持ちで観察していました。自宅に帰り、図鑑やネット検索で調べて珍しいクロジョウビタキと分かり、もっとじっくり観察していれば良かったと思います。

このように福江島では、四季折々たくさんの野鳥が観察できる素晴らしい環境です。今の時期は春の渡りがはじまっていて、梅雨明けぐらいまでは次々と北へ向かう野鳥がやってきます。特に、田植えが始まれば、そこに様々な野鳥がやってきます。野鳥観察が趣味の人達にはワクワクする季節です。これからも観察し続け、新たな発見がある事を楽しみにしていきたいと思っています。

## 珍鳥クロジョウビタキ 五島に飛来

会社役員の西上さん撮影



福江島に飛来したクロジョウビタキの雄  
—五島市玉之浦町（西上裕一郎さん撮影）

国内で観察されるのは珍しいクロジョウビタキ（ヒタキ科）が4月、五島市福江島に飛来し、同市木場町の会社役員、西上裕一郎さんが撮影した。県内の観察例は数件しかなく、五島市内では初めて。同市の銚瀬ビクターセンターなどによると、ヨーロッパや中国などで繁殖し、冬になるとアフリカやインドなどに渡る。日本には迷鳥として飛来。スズメほどの大きさで、日本で一般的に見られるジョウビタキに比べ、雄は頭部が黒く、翼の白い模様がない。今回見つけたのは雄だった。

野鳥観察が趣味の西上さんは4月26日、同市玉之浦町で車を運転していたところ、道路沿いにヤツガシラという珍しい鳥がいるのを発見。車を降りて観察していると、別の見慣れない鳥も飛んで来たため、カメラで撮影した。自宅に戻ってインターネットで調べ、別の鳥がクロジョウビタキだと分かったという。

西上さんは「畑や小川を飛び回ったり側溝の中に入り込んだりしていた。（ヤツガシラを含め）珍しい鳥を同じ日に発見できて、自分でもびっくり。運を使い切ったかも」と笑った。（三代直矢

2020年5月4日長崎新聞